

伊万里

市議会 だより

IMARI SHIGIKAI NEWS

No. 97

令和8年5月(2026年)



二里っ子まなびたいむ 議場見学の様子



- お知らせ P.2、10、15
定例会・議案質疑、広報広聴委員会視察、
副議長就任あいさつ
- 常任委員会 P.3~5
- 予算審査特別委員会 P.6~8
- 特別委員会 P.9~10
- 一般質問 P.11~15

令和8年第2回定例会は、6月15日(月)開会予定です。

特集

主権者教育(子ども議会) P.16

市議会のホームページは「伊万里市議会」で
検索、または右の二次元コードからご覧
ください。



上程された議案は、すべて可決、承認、同意および異義ない旨答申しました。

令和7年度一般会計予算	3月補正額	－7億5,909万1千円
	予算総額	365億9,557万8千円

第51回衆議院議員総選挙にかかる費用等の急を要する経費のほか、国の補正予算に関連した事業や決算見込み等による補正が行われました。

令和8年度当初予算	一般会計	305億3,236万5千円
	特別会計	144億3,894万8千円

本年は市長改選の年となり、政策的経費は継続的なものなど最小限にとどめ、主に義務的、経常的経費等、毎年の行政運営に不可欠な経費を中心とした骨格予算です。しかし、当初予算の規模としては過去4番目に高い予算額となりました。

議案質疑

国見台公園南側駐車場に可搬型コンテナトイレを設置

質疑 松尾伸人議員

今回、どのような経緯で可搬型コンテナトイレを設置することになったのか。また、どのような使い方を想定しているのか。

回答 副市長

国の地域未来交付金地域防災緊急整備型を活用して、市の防災拠点としている国見台公園に自己完結式（汚水処理循環機能付き）の可搬型コンテナトイレを設置するもの。また、もとよりこの国見台公園は散歩やジョギング等での利用者も多く、トイレ設置の要望があった場所で、日常使いをしながら、駐車場での車中泊避難や市内外の大規模災害の場合の避難所への搬送することも想定している。

質疑 盛泰子議員

個室の数は。また、移動の際は、トレーラーでの搬送になるのか。

回答 副市長

男女兼用の多目的トイレ1室、女性用トイレ1室の計2室で、移動の際は、クレーンで吊り上げ、トレーラーで搬送することになると考えている。

空き家家財処分費等補助金について

質疑 児玉不二子議員

空き家家財処分費等補助金の昨年4月から6月までの申請件数、執行額は。また、補助金の支給対象となる範囲は。

回答 副市長

この補助金はかかった費用の2分の1を補助するもので、上限10万円であるが、昨年4月から6月までの申請件数は6件、47万8千円の支給となっている。また、支給対象の費用としては、家財、ごみ処理手数料、運搬費用、廃棄物処分委託費、リサイクル費用、屋内外の清掃費用、敷地内の草刈りや樹木の伐採費用となっている。

市長等特別職の給与を改定します

伊万里市特別職報酬等審議会からの答申を踏まえ、市長・副市長・教育長・監査委員の給与を改定するための議案。これは昨年の3月議会において提案されたものの、改定時期（令和8年5月1日施行）が答申における実施時期と異なったことから賛成少数により否決。改めて提案するよう求めていたもの。施行日は令和8年4月1日。

特に質疑や討論はなく、全会一致で可決すべきものと決定した。

改正前

区分	給料月額
市長	94万6千円
副市長	75万5千円
教育長	67万8千円
監査委員	45万3千円



改正後

区分	給料月額
市長	96万2千円
副市長	76万7千円
教育長	68万9千円
監査委員	46万円

※伊万里市特別職報酬等審議会：特別職報酬等の額について審議する市長の諮問機関。市内の団体や市民の代表7人で構成。令和6年度に3回開催（令和6年11月27日、令和6年12月20日、令和7年1月20日）され、「1.7%の増額改定が適当」と答申された。

衆議院議員選挙の経費を承認しました

1月23日に衆議院が解散され、27日告示、2月8日投開票のスケジュールで選挙が行われた。緊急に選挙準備をする必要があり、その予算を決定するための議会を招集する時間的余裕がなかったため、専決処分された経費の承認を求める内容の議案。

特に討論はなく、全会一致で承認すべきものと決定した。

※専決処分・・・本来議会が決めるべき事項について、緊急を要するため議会を開く時間的余裕がない場合等に、首長が決定し処分する制度（地方自治法第179条）。次の議会で報告し、承認を求める必要がある。

※予備費の充用・・・あらかじめ使い道を定めず予算に計上してある予備費を使って、予算外の支出や不足分を補うこと。

質疑 全体で2,900万円かかると聞いていたが、補正額は2,166万円。その違いは何か。

回答 これ以外に予備費の充用があり、合計が2,900万円ほどになる。

〈委員長〉盛 泰子 / 〈副委員長〉松尾 伸人 / 中山 光義 / 梶山 太 / 金原 晋作 / 山口 常人 / 井手 勲

ひとり親家庭等医療費助成が現物給付になります

ひとり親医療費助成について、市の窓口へ申請が必要な償還払いから、医療機関の窓口で支払が完了する現物給付にするため、条例の一部を改正する。

●主な条例改正内容

		令和8年10月31日まで	令和8年11月1日から
①	助成の額	月ごとの領収書の合計から500円を控除した額	一部負担額(2割・3割)から②を控除した額
②	医療機関 窓口の負担	入院、通院(医科・歯科等)、調剤 一部負担額 (2割・3割)	1レセプト(1月、医療機関ごと) 入院：500円 通院(医科・歯科等): 初回受診500円(一部負担額が500円未満のときはその額) 2回目からは0円 調剤：0円
③	自己負担額	1月 500円	上記②のとおり
④	助成の方法	②で負担した領収書を添付し、市役所窓口で償還払いの申請	医療機関窓口で現物給付
⑤	市役所窓口	申請が必要	申請不要

●主な規則改正内容

		現行	公布の日から
①	受給資格証の有効期間	(更新の場合) 9月1日～翌年8月31日	(更新の場合) 11月1日～翌年10月31日
		現行	令和8年11月1日から
②	指定保険 医療機関等		【新設】 県内の医療機関等を「指定保険医療機関等」

〈委員長〉松尾 真介／〈副委員長〉西田 晃一郎／塚本 博幸／木寺 智子／児玉不二子／力武 勝範

災害時等の工事請負に関する条例の一部が改正されました

<改正の理由と概要>

災害その他非常時における、排水設備等の工事実施者に対しての特例措置で、今までは市内での排水設備等の工事は、管理者が指定した者でなければ行うことができなかった。しかし、令和6年1月に発生した能登半島地震の教訓を受け、災害時等においては、他の自治体の市町村長の指定を受けた指定工事店も工事を行うことができるようになる。

また、排水設備等の工事の検査合格時に交付する検査済票は、下水道接続率の向上や管路システム等によるデータベースの管理により、今後廃止となる。

質疑 他の自治体とは、周辺のどの地域までを想定しているのか。

回答 被害を受けていない遠方の地域、例えば、佐賀市、長崎市、福岡市などとなる。

伊万里市国民健康保険税の税率に関する条例の一部が改正されました

<改正の概要>

平成30年4月の国民健康保険制度改革により、佐賀県が財政運営の責任主体となり赤字にならない様、税率の算定を行い公表している。

また、令和12年度には県内で国民健康保険の税率が統一される予定であり、被保険者の負担を緩和しながら安定的に税率を統一するため、伊万里市では令和6年度に改定方針を策定している。

なお、改定税率は、「伊万里市国民健康保険事業の運営に関する協議会」に諮問し、適当であるとの答申を受けている。

<改定方針>

標準基本税率を基本とした税率改定を令和7年度から行い、税率の急激な上昇を避けるため、令和12年度までの6年間で緩やかに上昇させる。

また、標準保険税率と現行税率との差を令和7年度は6分の1、令和8年度は6分の2と、段階的に現行税率に上乘せし、標準保険税率が下がった場合は、標準保険税率に合わせて下げる。

なお、毎年1月に県から通知される標準保険税率をもとに毎年、見直しを行う。

(委員長) 林 博幸 / (副委員長) 川添 智徳 / 力武 英一郎 / 前田 邦幸 / 香月 孝夫 / 前田 久年

予算審査特別委員会報告

3月5日及び19日の本会議において付託されました、諸議案について審査の結果、議案乙第3号から議案乙第15号までの議案について、原案のとおり全会一致で可決すべきものと決定しました。

意見

・病児保育事業について

本事業は、病児の預かり保育をする事業で、事業所から手が挙がり、令和7年度から始まった。しかし、職員不足等の理由で現在休止中となっている。よって、令和8年度においては、職員を複数人確保するなど、早期に再開できるよう努めるとともに、継続的な事業ができるよう検討すること。

予算審査特別委員会 ◎委員長 前田 久年 ○副委員長 力武英一郎
総務分科会 ◎分科会長 盛 泰子 ○副分科会長 松尾 伸人
梶山 太 / 金原 晋作 / 山口 常人 / 井手 勲
文教厚生分科会 ◎分科会長 松尾 真介 ○副分科会長 西田晃一郎
塚本 博幸 / 木寺 智子 / 児玉不二子 / 力武 勝範
環境建設分科会 ◎分科会長 林 博幸 ○副分科会長 川添 智徳
力武英一郎 / 前田 邦幸 / 香月 孝夫 / 前田 久年

*歳入の審査を予算審査特別委員会全体で、歳出の審査を各分科会で行っている。

総務分科会

ふるさと応援寄附募集事業

ふるさと応援基金寄附金の見込額として20億円が計上されている。

質疑 令和7年度の実績からすると高すぎるのではないかと。

回答 当初予算要求段階である12月までの寄附額は、16億3,000万円であったものの、新商品の開発や検索ワード対策、PR方法の強化を行って確保していきたい。



防災活動事業

毎年県が作成している「佐賀県原子力防災のてびき」（青い冊子）が3月に全戸配布されたばかりだが、今回5年ぶりに「伊万里市原子力防災のてびき」（黄色い冊子）を改訂する予算として836万円（県費100%）が計上されている。

質疑 5年前の「てびき」とどのような違いがあるのか。改訂にあたっては違いをはっきりと出すようにできないか。

回答 大きな変更点は武雄市の公共施設統廃合の影響による避難先の変更である。また、バスで避難する方の集積場所を変更する地区もある。

質疑 配布時期は。

回答 令和9年3月予定である。

質疑 県の「てびき」と内容が似ているので、本市から県に工夫をするよう提案できないか。

回答 より良いものとなるように、県と意見交換をしたい。

文教厚生分科会

乳児等通園支援事業

乳児等通園支援事業は、保育所等に入所していない子どもでも、一定時間園を利用できる制度である。

質疑 実施園数や利用者の見込みは。

回答 実施園数は2園からスタートし、年度途中から3園が増えることを見込み、合計5園分としている。また、対象者327人中136人の利用を見込んでいる。

質疑 一時保育との違いは。

回答 一時保育は託児であるが、本事業は子どもの育ちを応援し、子どもの良質な育成環境を整備するとともに、すべての子育て家庭に対する支援を強化するものである。

青少年相談事業

青少年相談事業については、令和6年度決算審査特別委員会において、現在の相談窓口の体制の改善を図るよう求めた経緯があった。

質疑 どのような改善を行うのか。

回答 新たな取組として、令和8年度からはつながるきっかけや手段を増やす目的で、新たにインターネットでの予約を開始する。また、毎年夏頃に全戸配布するチラシで周知する。

中山間地域農業集落活動支援事業

中山間地域における農業生産条件の不利を補うとともに、耕作放棄の発生防止や水源かん養、洪水防止等の多面的機能の維持・向上を図るため、協定集落に対して共同活動等に要する経費を補助する。

質疑 令和2年度から令和6年度まで実施された第5期対策と、令和7年度から実施されている第6期対策を比較すると、取組集落が4集落、対象農地面積が82ヘクタール減少している要因と、今後の対策は。

回答 当該事業を活用して地域で農地を維持管理してもらうよう呼びかけており、今後も続けていく。



コミュニティセンター改修事業

伊万里市公共施設建築物個別施設計画において、長寿命化計画となっているコミュニティセンターの中で、老朽化が著しい牧島コミュニティセンターを長寿命化改修工事する。予算額は1億813万円で、工事日程は今年の7月から来年の2月までを予定している。

また、山代コミュニティセンター講堂の照明LED化改修費用に348万7千円。大川内コミュニティセンターフェンス取替工事費用に194万7千円計上されている。

都市公園管理事業

国の補正予算に伴い、防災拠点にもなりうる国見台公園に、汚水処理循環機能を備えた可搬型コンテナトイレが整備される。

議会機能向上特別委員会

本委員会は、令和7年第2回定例会において設置され、これまで計12回にわたり協議・検討を重ねた。伊万里市議会基本条例の再点検・見直しとともに、議会が主体となって取り組む主権者教育について調査・研究を行った。

◇議会基本条例の再点検・見直し

第13条（委員会活動）については、委員会における所管事務調査を、これまで以上に積極的に活用していくことを新たに明記した。

第18条（災害対応）については、大規模災害などの非常時においても議会機能を維持し、その役割を果たすこと、また災害時の具体的な議会対応は別に定めることを明記した。あわせて、議員が日頃から危機管理意識を持ち、必要な知識や技能の習得に努めることとした。

第24条（見直し手続き）については、条例の評価や見直しの流れがより分かりやすくなるよう表現を整理した。

また、新たに「情報通信技術の活用」を追加し、より効率的で円滑な議会運営に向けてICTの積極的な活用を進めることとした。

◇主権者教育の具体的な取組として、令和8年度の夏休みに、小学校および義務教育学校5・6年生を対象とした「子ども議会」を開催することを決定した。当日は、市議会の役割の説明・議会棟の見学・グループワークによる委員会体験・議場での委員会報告などを行う予定としており、子どもたちが市政を身近に感じ、自ら考える力を育む機会となるよう準備を進めている。

■先進地視察報告

本委員会では、令和8年1月に熊本県熊本市および菊池市を訪問し、子ども議会の取組について視察を行った。今回の視察で得た学びを活かし、伊万里市においても、子どもたちにとって意義ある「子ども議会」となるよう、しっかりと準備を進めていく。



熊本県熊本市



熊本県菊池市

※写真は視察時の委員です。

〈委員長〉林 博幸／〈副委員長〉力武 勝範／加藤 奈津実／木寺 智子／川添 智徳／山口 常人

空き家対策調査特別委員会

本委員会は、通算7回の委員会を開催し、調査・研究を行った。

本市の空き家率は、15.3%(約7件に1件)となっており、管理不全な空き家は増加傾向にある。また、倒壊の恐れや防犯面での懸念、景観の悪化などに対する地域住民から不安の声もあがっていることから、「適切な管理や解体等の推進」など空き家発生後の対応にとどまらず、「発生抑制」、「利活用の促進」など予防を含めた取組が求められている。

本市では、平成27年5月に制定された空家等対策の推進に関する特別措置法を基に、条例制定や空き家情報バンク制度、空き家家財処分費等補助金等の事業に取り組み、さらには、略式代執行など実

情に応じた対策を行っている。

「特定空家」や「管理不全空家」に陥ると、周辺環境へ深刻な影響を及ぼすため、所有者の管理責任強化、特定空家等になる前の段階での適切な管理を促す啓発や周知の仕組みづくりが求められる。また、空き家を財産として捉え、庁内における部局を超えた横のつながりを深め、相続時や転出時にも空き家管理の周知や相談体制の充実など、発生抑制に努めるべきである。

今後は、対策や予防を進め、空き家という不動産を活用するために、民間事業者、NPO、地域団体等の行政以外と積極的に連携する新たな公民連携の形を構築すべきである。

〈委員長〉 梶山 太 / 〈副委員長〉 金原 晋作 / 児玉 不二子 / 西田 晃一郎 / 松尾 真介 / 前田 久年

広報広聴委員会視察報告

◇長崎県波佐見町議会◇

議会だよりの編集体制や住民目線の広報の工夫等について調査を行った。本市議会の広報活動の向上に資することを目的としたものである。波佐見町議会では、全議員が広報に関わり、一般質問は1人1ページを責任を持って作成する体制が徹底されており、意識向上と効率化が図られていた。また、タブレットを活用した編集や地元高校と連携した表紙づくり、議会モニター制度の導入など、住民目線を意識した広報が行われていた。

◇長崎県諫早市議会◇

議会だよりの編集体制やSNSを活用した情報発信、議会報告会の運営手法等について調査を行った。本市議会の広報広聴活動の充実に資することを目的としたものである。諫早市議会では、議員主体で議会だよりを作成し、写真やイラスト、

注釈を活用することで読みやすさを工夫していた。また、高校生と連携した表紙やSNSによる情報発信など、若い世代への働きかけも行われている。議会報告会については形式を見直しながら実施し、市民の声を政策提言へつなげていた。

今回の視察を通じて、住民目線での分かりやすい情報発信の必要性を改めて認識した。本市議会においても、これらの知見を生かし、市民に開かれた議会運営の推進につなげていく。



令和8年1月30日 諫早市議会視察時の委員

〈委員長〉 西田 晃一郎 / 〈副委員長〉 児玉 不二子 / 加藤 奈津実 / 金原 晋作 / 木寺 智子 / 川添 智徳 / 松尾 伸人

一般質問 (質問順)

議員名	質問事項	議員名	質問事項
盛 泰子 (伊想会)	<p>1. 「こども誰でも通園制度」について</p> <p>(1)伊万里市での取組</p> <p>(2)制度の問題点</p> <p>2. 第51回衆議院議員選挙を振り返って</p> <p>(1)伊万里市の状況</p> <p>(2)今後へ向けて</p> <p>3. 市民図書館ホールについて</p> <p>(1)利用状況</p> <p>(2)可動席の状況</p> <p>(3)今後の対応</p>	川添 智徳 (伊想会)	<p>1. 城山公園の整備について</p> <p>(1)城山公園の現状と経緯</p> <p>(2)借地契約</p> <p>(3)川原茂輔像</p> <p>(5)駐車場とトイレの整備</p> <p>2. 市長の市政運営について</p> <p>(1)2期8年の実績と残された課題</p> <p>(3)今後の市政運営</p>
木寺 智子 (翠蓮会)	<p>1. 都市計画マスタープランを踏まえた都市構造の具体化について</p> <p>(1)市の中心と周辺の拠点の位置付け及び役割分担</p> <p>(2)周辺地域における生活圏の想定単位</p> <p>(3)周辺地域における生活機能の維持についての考え方</p> <p>(4)公共施設再編と拠点形成との連動</p> <p>(5)都市構造再編の進め方及び実行段階</p> <p>(6)市長の考え</p> <p>2. 若者・子育て世代に選ばれる移住定住戦略について</p> <p>(1)移住定住施策の現状と課題認識</p> <p>(2)ターゲットの設定についての考え方</p> <p>(3)移住定住施策の効果検証及び評価</p> <p>(4)周知・情報発信の在り方</p> <p>(5)今後の移住定住戦略の方向性</p>	前田 邦幸 (興隆会)	<p>1. 市営住宅が被災した際の保障について</p> <p>(1)災害等による市営住宅の被災件数と対応</p> <p>(2)被災した際の市営住宅入居者への保障</p> <p>2. 教育行政について</p> <p>(1)学校プールに対する考え</p> <p>(2)小、中学校及び義務教育学校の学校給食費</p>
井手 勲 (幸風会)	<p>1. 南波多町におけるインフラ整備及び課題について</p> <p>(1)国道202号の歩道整備</p> <p>(2)原屋敷土石流警戒区域の整備</p> <p>(3)古里地区の法面にある危険箇所の整備</p> <p>(4)旧波多川小学校跡地利用について</p> <p>(5)市長の考え</p> <p>2. 市の公共施設の整備について</p> <p>(1)駐車場の安全対策</p> <p>(2)公共施設のトイレ整備</p>	児玉不二子	<p>1. 公共施設の環境整備について</p> <p>(1)伊万里駅の環境整備の現状</p> <p>(2)伊万里市陶器商家資料館の空調整備の現状</p> <p>2. 小、中学校及び義務教育学校の体育館の空調整備について</p> <p>(1)佐賀県の動き</p> <p>(2)市の考え</p>
		西田晃一郎 (興隆会)	<p>1. 伊万里市都市計画マスタープランについて</p> <p>(1)策定の経緯</p> <p>(2)市民の意見の集約と活用</p> <p>(3)パブリックコメント</p> <p>(4)市民への周知</p> <p>(5)まちづくりの具体的な取組</p> <p>(6)実現に向けて</p>

※建設農林水産部の答弁は、事務取扱の副市長が行っています。

一般質問のYouTube
配信はこちら



伊万里市議会 (議員名)

検索



市民図書館ホール可動席の改修を

【その他の主な質問】

・第51回衆議院議員選挙の

盛 泰子 振り返り

質問 市民図書館ホールは階段席と平土間の2種類の使い方ができるが、昨夏より階段席のみとなっている。利用頻度も高く、利用者に大変不便をかけているが、どのように考えているか。

答弁 ①教育部長、②市長

状況は把握しており、改修には約1,800万円の費用を見込んでいる。ここ3年間の利用状況はどちらも100回程度であった。効率的な修繕方法を検討したい。②利用実績が多い可動席については将来的により使いやすい方法がないかの検討もしながら、早急に修理をやっていきたい。

こども誰でも通園制度の課題

質問 ①令和8年度から全国一斉に開始されるが本当に子育て支援の充実となるか疑問。昨年12月の段階では「該当児数327人、利用見込み数136人、実施希望園4園」とあったが現状は。②実施される2園には心から感謝するが、「こども誰でも」という名称からはほど遠い状況。説明会等ではどんな意見が出されたのか。③地域によって保育環境は様々である中で、先行自治体での課題がクリアされないまま全国一律でスタートされる。市長はどう考えるか。

答弁 ①、②健康福祉部長 ③市長

①現在2園が実施を希望されている。②「保育士の確保が難しい、一時預かりも難しい状況であり余裕がない、保育士を確保できたとしても利用実績による給付のため経営的にやっていけるのか不安」等の意見や質問があった。③4月からの制度開始後に現場や保護者の声を聞き、真に求められるものは何なのか国や県へも声を上げ、名称通りの制度となる努力をしたい。



都市構造の具体化について

木寺 智子

質問 都市計画マスタープランにおける中心拠点及び周辺拠点の設定と役割分担は。

答弁 副市長

中心拠点、地域拠点、生活拠点の三層構造とし、中心拠点は伊万里駅周辺に都市サービス機能を集積する拠点、地域拠点は中心拠点を補完する拠点、生活拠点は日常生活機能を担う拠点として整理している。

質問 中心部への機能集約と周辺地域の生活機能の維持をどのように両立するのか。

答弁 副市長

コンパクト・プラス・ネットワークの考えに基づき、中心部に都市機能を集約しつつ公共交通で結び、周辺地域の生活基盤も維持することで両立を図る。

質問 今後どのような都市構造を目指すのか。

答弁 市長

「自然・文化・営みが交わり人が集まる器となるまち」を将来像とし、市民の意見を反映した計画のもと、公共施設整備や拠点形成を進め、魅力ある都市づくりを推進する。

若者・子育て世代に選ばれる移住定住戦略について

質問 移住から定住までの施策をどのように連動させているのか。

答弁 総合政策部長

雇用創出、住宅支援、婚活支援、子育て支援等を組み合わせた「子育て若者成長応援パッケージ」により一体的に推進している。

質問 今後の移住定住戦略の方向性は。

答弁 市長

企業集積による雇用を強みに、まず働く場を軸として整備を進め、「働きたい、住みたい、子育てしたいまち」を目指し、移住と定住を両輪としてまちづくりを進める。



南波多町のインフラ整備及び課題について

【その他の主な質問】

・市の公共施設整備について

井手 勲

質問 国道202号、大坪町白野地区の火葬場旧入口付近の歩道改良について、市の考えを尋ねる。

答弁 副市長

自転車や徒歩で通行する際に安全面に課題があると認識している。今後、当該箇所を含む白野北交差点周辺の渋滞対策について、引き続き要望していく。

質問 原屋敷地区、土石流警戒区域の整備について尋ねる。

答弁 副市長

原屋敷地区は平成26年3月に県の土石流警戒区域に指定され、令和6年度に土石流防止対策のため、砂防堰堤整備に係る概略設計が実施され、今後、県が実施する事業の中で連携を図りながら進める。

質問 古里地区の市道法面整備状況と、今後の対応について尋ねる。

答弁 副市長

この法面は40年が経過し劣化によるモルタルの剥落が発生している。令和元年に雑木伐採など補修対応したが、落石など危険性が高く、緊急性の高い箇所は早期の予防措置を講じ住民の安全安心の確保を図っていく。

市の公共施設の整備について

質問 市の公共施設駐車場において、転落防止策、車止めの設置など安全対応が不十分な所があると思うが考えを尋ねる。

答弁 副市長

歩行者と車両の双方にとって使いやすかつ、安全に利用できる必要があると考えている。また各施設ごとに日頃から点検や維持管理に努めているが、改めて定期的に、全庁的な点検・確認を行う必要があると認識している。



城山公園の整備について

【その他の主な質問】

・市長の市政運営について

川添 智徳

質問 城山公園はかつて猿小屋や売店などがあり賑わっていた記憶があるが、現在は利用者も少ないように感じている。城山公園の現状とこれまでの経緯を確認したい。

答弁 副市長

城山公園は昭和33年に開園され、その当時は賑わっていた。現在は他の公園を整備し利用者が分散したため訪れる来園者が減少した。

質問 借地契約はいつからか。年間の借地代は。また、購入計画等はなかったのか。

答弁 副市長

昭和48年から市が借地契約。年間の借地代は38万5千円。購入計画は今までなかった。

質問 頂上の広場にある川原茂輔像はなぜそこにあるのか、経緯を確認したい。また所有者と管理はどのようになっているのか。

答弁 副市長

昭和33年に旧橘公園から移設され、市が所有し管理もしている。

質問 移設は可能か。前例等あれば伺いたい。

答弁 副市長

藤山雷太像の移設事例があり可能ではあるが、移転先を含め市議会等の幅広い合意形成が必要。また、移転費用は原因者が負担することになる。

質問 令和9年4月に新築移転予定のいまり保育園の跡地に駐車場やトイレ、公園等の整備が必要ではないか。また、頂上の広場にもトイレや遊具を整備できないか。

答弁 副市長

今後、いまり保育園跡地利用を見極めながら、城山公園をどのような公園にしていくのかを含め慎重に検討していく。



市営住宅が被災した際の保障について

前田 邦幸

質問 市営住宅の災害等の過去5年の件数は。

答弁 副市長

過去5年間は立花市営住宅の1件のみ。

質問 1月18日、4階での火災時の消火活動において、1階から3階までの入居者に対する水の損害被害への対応は。

答弁 副市長

今後の生活の場を希望された方には、立花市営住宅の空き部屋を準備し、2日後新しい部屋に転居された。

質問 水の損害被害の入居者に対して金銭的補償はなかったと聞かすが、今後の対策として提案だが入居の際に民間がしているように、家財保険の加入を促し、情報共有することが必要と思うが。

答弁 副市長

今後、加入に対しては、加入を促すような周知を図っていく。

教育行政について

質問 学校プールに対する考えで、今後の水泳教育についてどのように考えているか。

答弁 教育長

市内18校のうち、8校が民間委託で授業を行い残りは学校プールを維持し教員で行う。今後もプールを維持しながら民間と両方で水泳授業を続けていく。

質問 学校給食費の未納の状況は。

答弁 教育部長

令和6年度は小中学校で計61万3,514円。

質問 学校給食費無償化の現状は。

答弁 教育部長

令和8年度予算には、小中学校等の学校給食費補助金として、2億8,117万9,000円を計上し令和8年度は全ての学年で無償となる。



公共施設の環境整備について

児玉不二子

質問 伊万里市西駅ビルの長期間故障しているトイレ設備の修繕時期は。

答弁 総合政策部長

工事の発注準備に取り掛かっている、令和7年度内に可能な限り修繕を進める。

質問 伊万里市西駅ビルの空調設備の整備に向けた検討は。

答弁 総合政策部長

令和8年度はスポットクーラーを設置して試験的な運用を計画し、その結果を踏まえて後の対応については検討する。

学校体育館の空調整備について

質問 国、県において、体育館の空調整備に向けた動きがある中、県内の自治体において、体育館空調整備に向けた調査や検討が進められているか。

答弁 教育部長

大町町の小中一貫校が令和5年度に設置。来年度に設置工事を予定している市町は、唐津市で1校、みやき町で1校、太良町で2校の1市2町の4校。基礎調査を実施中、また実施を予定している市町の数は、7市4町。整備について検討中は4市町。

質問 体育館の空調整備を取り巻く環境が少しずつ変化している中で、市として、空調設備に向けての考えがあるのか。

答弁 教育部長

佐賀県及び県内の市町の状況については、日頃から情報収集に努めている。引き続き、他自治体での整備方法などの情報収集に努めながら、本市において実現可能な手段について検討していく。

答弁 市長

国の交付金がスポットクーラー的なものにも使える制度になれば設置したい。



都市計画マスタープラン について

西田晃一郎

質問 社会情勢の変化や人口動態の推移を踏まえ、どのような課題認識のもと策定に至ったのか。

答弁 副市長

特に市民の声については力を入れ、多様な視点からの意見聴取に努めた。その後庁内での策定部会や計画策定委員会による協議を重ね伊万里市都市計画審議会への諮問、答申を経て、計画策定に至った。

質問 計画内容を広く知っていただくための市民への周知方法は。

答弁 副市長

まちづくり出前講座も活用しながら、市民の皆様の理解促進に努めていく。

質問 用途変更にはどのような手続きが必要で、それに要する期間はどの程度か。

答弁 副市長

まず、どの範囲において、どのような内容の変更を行う必要があるのか。次に、関係地域への説明会や公聴会、さらに、原案の公告縦覧、今一都市計画審議会への諮問、知事への協議といった手続を経た後、都市計画変更の告示まで1年以上、その後の手続に、さらに1年ほどかかると考えており、最低2年以上を要するものと見込んでいる。

質問 伊万里市都市計画マスタープランに込めた思いと実行に向けた、まちづくりのビジョンは。

答弁 市長

県や国など必要なところに働きかけ、できるだけ早く見直しを行い、マスタープランを通じて伊万里市の魅力向上につながる、ひいては、この用途地域等を生かしながらまちづくりをしっかりと進めていきたい。

副議長就任あいさつ

※加藤奈津実元議員（元副議長）の辞職に伴い副議長が不在となったことから、3月2日の議会内選挙により、梶山太議員が新副議長に選出されました。



副議長
梶山 太

市民の皆様には、日頃より市議会へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

この度、令和8年第1回定例会において、議員の皆様方のご支持を賜り、歴史と伝統ある伊万里市議会第33代副議長に就任させていただきました。大変光栄に感じておりますとともに、副議長という重責を痛感しております。残り一年間ですが、中山議長を支え議会の皆様の御協力をいただき、議会の円滑な運営に全力を尽くす覚悟です。

市民の皆様には、今後とも市議会への御理解と、市政へのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。就任のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

夏休み
特別企画

こども議会 開催予定！



「議会ってどんなところ？」 「市議会って何をしているの？」

そんな疑問を、見て・聞いて・体験できる一日です

- 市議会のおしごと紹介
- グループワーク（委員会体験）
- 議会の中を見学してみよう！
- 本物の議場で発表！（本会議体験）

■対象：小学5・6年生

■定員：20名

※詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

編集後記

当選から3か年が経過し、任期も残すところあと1年となりました。この間、市民の皆様の声に真摯に向き合いながら、伊万里市の発展と課題解決に全力で取り組んでまいりました。豊かな自然や歴史、伝統ある伊万里焼に加え、質の高い農産物に代表される地域資源に恵まれた本市の魅力を、次世代へどう引き継いでいくか、その責任の重さを日々感じております。

さて、近年は物価高騰の影響が続き、農業や地場産業、地域経済にも大きな影響が及んでいます。また、少子高齢化の進行により、地域コミュニティの維持や担い手不足といった課題も深刻さを増しています。こうした本市の課題に対し、現場の実情に即した丁寧な対応が求められています。

残りの任期においても初心を忘れず、市民の皆様一人ひとりの声を大切にしながら

ら、誰もが安心して暮らし続けられる伊万里市の実現に向け、誠心誠意取り組んでまいります。ご意見・ご提案等がございましたら、どうぞお気軽に市議会までお寄せください。（金原 晋作）

広報広聴委員会

〈委員長〉西田晃一郎

〈副委員長〉児玉不二子

〈委員〉梶山 太 金原 晋作

木寺 智子 川添 智徳

松尾 伸人

[発行・ご意見]

伊万里市議会 伊万里市立花町 1355-1
TEL0955-23-2594 FAX0955-22-1277
E-mail:gikai@city.imari.lg.jp

[編集] 広報広聴委員会 [印刷] 株式会社夢幻企画